

知立市議会行政視察報告書

知立市議会 正和会 川合正彦

期 日 平成30年5月14日（月）午後1時30分～3時30分

視察先 広島県呉市

□調査内容 「呉市公園屋台事業」について

1.事業の背景と目的について

戦後各所に並んでいた屋台が、蔵元通りの整備に合わせこもれば広場と歩道上に集められ赤ちょうちんの並ぶ呉の名所としての屋台文化があった。

この基盤を生かし、「屋台が利用者に親しまれ、市民生活と調和したものとなるよう誘導し、観光振興、賑わいづくりに資すること」（要項）を目的としている。

所感 日本中どこもかしこも画一的な整備、再開発が進んできたが、ここにしかない文化を行政管理で育成する事例として活かしたい。従来型の行政センスの克服が必要。

知立市もかつて、知立駅周辺で栄えた親しまれた屋台文化を今の時代に合わせ、復活させ知立ならではの「街文化」の育成に活かしたい。

2.屋台事業の概要と経緯について

昭和40年代から営業を続けてきた屋台が、道交法の改正で規制が厳しくなり車道での営業が禁止となったが、存続を求める声に市が蔵元通りの歩道の道路占用許可を、警察が道路使用許可を出し28店舗でモデル事業としてスタートさせている。

当初は、一代限りとして許可してきたが、業者の高齢化によって屋台が減少し始め、配偶者または子供への継承を認め、出店者の募集を2次、3次と行い現在11店舗が営業している。

所感 当初より一代限りとする規定では将来性はない。再募集では48件の応募があったという。広い公園沿いの歩道の一角という環境は屋台として周囲と不一致な感じをうけた。若い世代も気楽に入れる仕掛けと、シチュエーションづくり次第で事業はさらに活性化できると思う。今後に期待した、知立市の街づくりのも生かしたい。

3.事業における成果について

日本の昭和を代表する屋台文化を、街づくりレベルで取り組みモデル事業として展開。課題は多いが特色ある街づくりに一定の成果は認められる。

所感 呉市の大衆文化を継承し、正の部分も、負の部分も合わせ新しい起業者の誘導に効果が見込める。※露天業の業態変化に合わせ、キッチンカーなどの参入も認め賑わいの拠点づくりとして、イベントなどとの融合で一層の効果が見込める。

4.現状における事業の問題点と課題について

所感 公共用地を一定の個人に貸し出すことは、公平性に課題が残る。

店舗の減少から推測すると、需要をつかんでいない。環境整備と幅広く受け入れられる事業展開が求められる。

メニューや衛生管理なども、規制による制限のみならず主体的にクリアしなくてはならない。

※インフラの整備は行政が当初から行ってきたらしいが、加えて今の需要や価値観に合った事業展開や集客策について行政が方向性を示す必要がある。

知立市議会行政視察報告書

知立市議会 正和会 川合正彦

期 日 平成30年5月15日(火) 午後1時30分～3時30分

視察先 福岡県大牟田市

□調査内容 「大牟田市シティープロモーション」について

1. 事業の背景と目的について

地域の魅力が十分理解されていない。情報の発信不足。都市間競争の激化する中、人口減少への対応の必要性。が今後の行政運営の大きな課題となり「選ばれる街大牟田」の実現に向け市の総力を挙げ取り組みが事業化されたもの。

インナー&アウターとして区分した取り組みが分かりやすい

※インナープロモーション

市内居住者に対し大牟田の魅力を理解・認識してもらい郷土への誇りや愛着を醸成し人口の市外流出を食い止め定住人口増を目指す。

※アウタープロモーション

市外居住者に大牟田市に対しての興味を喚起し、面白そう、行ってみたい、更に「移り住むなら大牟田市」と、選ばれる街として交流人口増、移住人口増を目指す。

所感 これまでインナーPR とアウターPR を区別しないままシティープロモーションを議論する事が多かったが、当然のことながら具体的な戦略作りには対象を分けて考えるない観光、雇用、インフラ、福祉・・・目標があいまいになる。

2. 事業の概要と経緯について

大牟田の魅力創出事業、移住定住促進事業、メディアを活用した情報発信事業などの事業を中心として「暮らすのにいい街」「選ばれる街」を目指した事業展開を進めている。

政策の基本に「人が育ち、人でにぎわい、人を大切にする ほっとシティおおむた」を都市像とする考えがあり、子供を産み育てたいと思ってもらえる環境づくり、未来の大牟田を担う人材の育成、産業の多様化と雇用の場の確保をはじめとする多様な取り組みが進められてきた経緯がある。

所感 ターゲットを明確化し、他にない差別的優位性をブランド力とし訴求する。

このポジショニングを念頭に置いた考え、方針が事業全体の支えとなっている炭坑で栄えた街が衰退の危機を乗り切ろうとする真剣さがある。

徹底した顧客志向、TO から WITH への発想の転換に学ぶ。

3. 事業の方向性について

生活のしやすさにつながる魅力づくり

方向性① 生活に実態を向上させる取り組み

◎便利な街 子育てをしやすい街 安心な街→住み続けたいまち「定住化」

関心を持ってもらえるきっかけとなる魅力

方向性② 対外的なイメージづくりに対する取り組み

◎歴史がある街 食文化がある街→選ばれる街「交流・移住人口増」

所感 常にターゲットを明確化し、顧客満足度を意識した発想が大牟田市のシティープロモーションの基本となっている。知立市に欠ける部分であり今後を活かしたい。

4.事業における今後の課題について

人口の減少、少子高齢化が著しく進行しており、いかに人口の流出を抑え移住者を獲得するかは喫緊の課題。市内居住者にもまだまだ市の良さは伝わっておらず市の内外に向けてのシティープロモーションを全市的にどのように周知するか。企業の協力やメディアの活用、様々な情報ツールの活用がさらに望まれる。

所感 知立市にはここまでの危機感がない。現状に甘んじた行政運営は破綻する。さらに戦略的、具体的な知立市独自のシティープロモーションを設計したい。

知立市議会行政視察報告書

知立市議会 正和会 川合正彦

期 日 平成30年5月16日(水) 午前10時00～12時00分

視察先 福岡県太宰府市

□調査内容 「太宰府景観計画」について

1.事業の背景と目的について

市民・事業者及び行政との協働で豊かな支援と多くの文化遺産を活かしながら、古都の風情と都市の生活が調和した景観を守り・創り・活かし・育てていく景観づくりを進めるための計画策定に至ったもの。

所感 平成20年度の国の補助事業がきっかけとなったとのこと。

もともと太宰府天満宮という観光資源があり、観光立市としての取り組みは規模が違いますが今後の知立市の観光行政にとって、歴史的資源の保存・継承からの価値を活かすノウハウとなる。

2.景観形成の基本方針について

① 景観資源を認識し、保全・活用を図る。

景観形成に取り組む際は、景観資源を把握し踏査調査を行い、その結果に基づき保全・活用を前提とした計画立案をする。

② 大宰府固有の緑を修復・保全・創出する

大宰府の個性を形作る樹木や草花を、積極的に増やし緑豊かな、歴史の街を修復・保全・創出する。在来種、万葉植物など「おすすめ樹種」を参考に緑化を進める。

③ 周辺環境との協調を図る。

民間が行う建設行為や開発行為については、周囲や背景色となる緑など景観との調和を配慮するよう規制、検討を行う。

所感 知立市も景観条例などによって計画的に街並みづくりを進める必要がある。

特に旧東海道、弘法通りなど歴史的な街並みづくりによって、新たな価値が生まれ観光資源として活かされる。現状では価値を失っている。早急に対応したい。

3.街づくりの将来像について。

▶100年後も「古都太宰府の風景」が映える街を目指す。」

▶文化資源を景観資源として保全・活用する

所感 そのため、古代から各時代ごとの文化遺産を生かし多様な文化と市民生活の融合を図り、山並み、樹木、草花などの自然との共生、来訪者との親交を深めるなど市域全体の景観と文化育成を図ろうとするところが計画の意図であろうと感じる。

4. 事業における課題と問題点

景観育成地区における、民間開発、建設行為との整合性。規制や届出等の周知。

調和を強調しすぎると個性がなくなってしまうこともある。

古い建物の維持、管理、改修などに対しては専門的な知識、技術が必要。

(建築家、大学との連携を視野に)

夜間はほとんど人が歩いていない。夜の観光も必要では。

古民家の借り上げなどに対して仲介団体の設置が必要では。

(トラブルも1件発生しているらしい。)

所感 古民家などの利用は課題も多いが、カフェや宿泊施設に活用した魅力ある街並みづくりを期待したい。古いものを生かす事がこれからの観光のキーワード。